

平成 29 年度通常（第 2 回）理事会議事録

日 時： 平成 29 年 9 月 3 日（日） 11：00～15：30

場 所： 岸記念体育会館 1 階 101 号室

出席理事：（敬称略、順不同）

河野博文、中川千鶴子、植松眞、鈴木修、斎藤渉、坂谷定生、平松隆、川北達也、天辻康裕、富田三和子、宮野幹弘、高間信行、相澤孝司、菊池邦仁、末木創造、森信和、大島茂樹、大西治夫、馬場益弘、中村和哉、井川史朗、黒川重男、宇都光伸

以上 23 名

出席監事：児玉萬平、上野保

以上 2 名

オブザーバー：安藤淳総務委員長、柳澤康信広報委員長、大庭秀夫レース委員長、山川雅之医事科学委員長、吉田豊外洋計測委員長、大坪明外洋安全委員長、大村雅一ルール副委員長・事務局長、豊崎謙広報委員

議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 29 名中、出席者 23 名により、定款 34 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

定款 33 条に基づいて、河野博文会長が議長となり、平成 29 年度通常（第 2 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を鈴木修専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、末木創造、馬場益弘の両理事が任命された。

河野会長から、セーリングシーズン中、ジャパンカップ、テザーワールド、470 ジュニアワールドとビックレースが続き、10 月にはセーリングワールドカップ蒲郡大会が控えている。重要案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

<審議事項>

1) 理事及び監事候補推薦手続規則（理事会内規）改訂の件

安藤総務委員長から資料に基づき、理事及び監事候補推薦手続規則（理事会内規）改訂について説明があった。

改定の趣旨は、定款変更により、委員会推薦及び女性理事候補者枠の増員を目的にして理事枠が 5 名増加したことに伴い、理事推薦候補者の推薦方法の改訂を行うものである。

特に、女性理事の積極登用をはかるための女性理事推薦候補者枠3名（現行より2名増員）については、当連盟が定める女性活躍推進施策（平成29年5月27日理事会決議により制定）の趣旨に則り、立候補者が3名未満の場合であっても、残りの定員を男性立候補者へ引き当てるのではなく、一旦これを欠員とすることにより、任期中途での女性候補者の追加立候補の余地を残し、女性理事数の最低3名の確保を目指すものである。具体的には、理事及び監事候補推薦手続規則（理事会内規）を改訂する。主な改訂内容は、第7条（全国加盟団体代表者会議による理事候補者の推薦手続）

- ① 一般推薦候補者枠（8名）への推薦は、男女を問わない。
 - ② 女性特別推薦候補者枠（3名）への推薦は女性に限る。
 - ③ 一般推薦候補者（8名）に入らなかった女性立候補者のうち、得票順位の上位3名を女性特別推薦候補者とする。
 - ④ 一般推薦候補者（8名）に入らなかった女性立候補者数が3名未満の場合は、その女性立候補者を女性特別推薦候補者として推薦し、3名との差分は欠員とする。この場合、当該欠員分について任期中途の女性の再立候補を妨げない。
- との発言があった。

川北理事から、9位以下の女性候補者が3名未満の場合、当該3名未満が当選とし、3名に満たない数は欠員とする。任期中途での女性候補者の立候補の余地をのこすとしているが、改めて選挙するののかとの質問があった。

満場一致で承認された。

2) 第72回国民体育大会セーリング競技（愛媛国体）感謝状の贈呈

安藤総務委員長から資料に基づき、第72回国民体育大会セーリング競技（愛媛国体）感謝状の贈呈について説明があった。

10月1～4日まで、愛媛県新居浜マリーナで開催する第72回国民体育大会セーリング競技の大会運営協力に対し、新居浜漁業協同組合、垣生漁業協同組合、多喜浜漁業協同組合、大島漁業協同組合、海上自衛隊第42掃海隊、マリンパーク新居浜の6団体に、国体委員会の推薦に基づき、感謝状を贈呈するとの発言があった。

黒川理事から、国体が開催される愛媛県新居浜市新居浜マリーナ沖海面は、4漁業協同組合の漁業権が設定されているため、このうちの1つの団体でも協力が得られなければ、円滑な国体の運営は困難であることから、すべての漁業協同組合への感謝状の贈呈をご理解いただきたいとの発言があった。

満場一致で承認された。

3) 平成 29 年度 JSAF 定期表彰

安藤総務委員長から資料に基づき、平成 29 年度 JSAF 定期表彰に関わる受賞候補者推薦依頼について説明があった。

平成 29 年度 JSAF 定期表彰に係わる受賞候補者推薦書を JSAF 理事・委員長ならびに各加盟・特別加盟団体事務局へ依頼する。なお、候補者提出の締め切りは平成 29 年 11 月 17 日、表彰は 2018 年 1 月 20 日（土）開催の全国加盟団体代表者会議において表彰を予定しているとの発言があった。

満場一致で承認された。

4) JSAF 障がい者セーリング推進強化拠点、強化艇種選定等について

高間副委員長から資料に基づき、JSAF 障がい者セーリング推進強化拠点、強化艇種選定等について説明があった。

JSAF 障がい者セーリング推進強化拠点、同強化艇種及び 2018 ハンザクラスワールド & インターナショナルチャンピオンシップ広島大会で使用する艇・付属機材の同大会終了後の JSAF としての活用計画について、① JSAF 障がい者セーリング推進強化拠点は、JSAF 障がい者セーリング推進委員会が JSAF 加盟団体・特別加盟団体に対して公募を行い、立候補団体が作成する活用計画を同委員会にて精査し、JSAF 理事会にて審議決定する。② JSAF 障がい者セーリング強化艇種は、Norlin 2.4 OD（一人乗りキールボード）、Hansa 303（一人乗りセンターボード艇）とする。Weta については、今後の WS（国際セーリング連盟）の動向を注視しつつ、強化艇種選定の要否、選定期を判断する。③ 2018 ハンザクラスワールド & インターナショナルチャンピオンシップ広島大会開催へ向けて、広島県連が日本財団助成申請により調達を予定している艇・付属機材のうち、同県連が継続して活用する艇・付属機材以外は、JSAF 障がい者セーリング推進強化拠点のうち、JSAF が提示する当該艇・付属機材の配備基準をクリアし、かつ同配備条件を承諾した拠点へ配備するとの発言があった。

川北理事から、貴委員会の基本方針に基づいて、平成 29 年度強化拠点判定が応募 5 団体を強化拠点候補地として認めたこと、また、選定要件や選定方法は 5 団体に伝わっているのかとの質問があった。

安藤委員長から、本理事会承認後に通知予定である。7 月公募の時点では選定要件や選定方法はアナウンスしていない。今後の対応としては、全強化拠点候補地に対して、具体的計画・実施状況の精査を行い、選定要件をクリアした拠点を JSAF 障がい者セーリング推進強化拠点との回答があった。

満場一致で承認された。

<協議事項>

1) 日本カイトボード連盟の加盟について

安藤総務委員長から資料に基づき、日本カイトボード連盟からの提出された特別加盟団体申請について提案があった。

一般社団法人日本カイトボード連盟から日本セーリング連盟運営規則第8条1項(1)による艇種別特別加盟団体の加盟申請があった。総務委員会において、JSAF 特別加盟団体(艇種別)として連盟加盟するための条件に該当していることを確認した。なお、国際カイトボード協会(IKA)にも加盟しているとの発言があった。

鈴木専務理事から、次回理事会審議事項とするとの発言があった。

<報告事項>

1) 特定寄附金の募集に関わる募集目論見書

斎藤財政委員長から資料に基づき、特定寄附金の募集に関わる募集目論見書について報告があった。

前理事会で監事からのご指摘を受けて、JSAF が用途を特定して広く社会から一定期間募金活動を行う場合、寄附金取扱規程第4条により募金目論見書を作成し、理事会の承認を求めることとした。①選手強化事業に関わる寄附金、②環境事業にかかる寄附金、③障がい者セーリング普及・強化推進事業に係る寄附金、④日の丸セーラーズにかかる寄附金⑤宮城県名取市閑上ヨットハーバーの東北のセーリングの拠点化に向けた活動及び事業への寄附金について、募金目論見書を作成し募金を開始する。また、本理事会承認を受けて、JSAF ホームページに掲載する。なお、障がい者セーリング強化プロジェクト(2017年パラワールド・チャンピオンシップ:ドイツ・キール)に関わる寄附金については、現行の目論見書を一部変更するとの発言があった。

天辻理事から、企業が特定選手に寄附する場合との違いについて質問があった。

大村事務局長から、個人又は団体から受領する寄附金は「特別寄附金」になるとの回答があった。

川北理事から、①選手強化事業に関わる寄附金と④日の丸セーラーズにかかる寄附金では募集対象事業が同様であるが問題はないか

斎藤常務理事から、選手強化事業に関わる寄附金の募集事業は、補助金・助成金等を受けられない事業としているとの発言があった。

平松理事から、日の丸セーラーズにかかる寄附金の事業内容で、募集内容以外、例えば、セーリング競技の普及活動ためのポスター製作費などは対象事業とならないのかとの質問があった。

斎藤常務理事から、上記に付帯する事業として追加するとの発言があった。

上野監事から、委員会に委託されていない場合は理事会の承認事項と解されるが、当議題を報告事項とされている関係性を説明いただきたいとの発言があった。

鈴木専務理事から、本議題を審議事項として決議を發した。

出席理事 23 名全員一致で承認された。

2) 日本ヨットクラブ連盟休眠団体扱いについて

安藤総務委員長から資料に基づき、日本ヨットクラブ連盟休眠団体扱いについて報告があった。

特別加盟団体日本ヨットクラブ連盟は、現在、会長不在、会員数ゼロ、事務局担当者不在の状態を確認したので、JSAF 運営規則第 5 条(3)別表 2 に定める休眠団体扱いとする。また、平成 25～28 年度（4 年間）特別加盟団体負担金未収金については、徴収が難しいことから本年度決算で損金扱いとするとの発言があった。

末木理事から、現在でも神奈川県を中心に同好会等で活動しており、活動人数も多数存在していると理解しているとの発言があった。

川北理事から、医学部関連の活動とは別で大学等のセーリング同好会で活動しているとの発言があった。

安藤委員長から、休眠団体として組織の復活を期待するとの発言があった。

中川副会長から、休眠団体の負担金も納入できないと判断されることから、支払扱いも考慮する必要があるとの発言があった。

天辻理事から、休眠団体から復活する場合、休眠期間中の団体負担金未払金はどうするのかとの質問があった。

斎藤常務理事から、会計上は過年度未収金分として計上しているとの発言があった。

鈴木専務理事から、平成 28 年度加盟・特別加盟団体負担金を精査した結果、外洋東関東ならびに外洋ヨットクラブ関連団体に未収があることから、坂谷常務理事ならびに平井理事に催促していただきたいとの発言があった。

鈴木専務理事から、日本ヨットクラブ連盟休眠扱いについて、①将来の団体復活も検討する、②平成 25～28 年度（4 年間）特別加盟団体負担金未収金を損金扱いにすることで、本議題を審議事項として決議を發した。

出席理事 23 名全員一致で承認された。

3) オリンピック強化委員会報告

斎藤オリンピック強化委員長から資料に基づき、オリンピック強化委員会報告があった。

最近の国際大会の主な成績は、49erFX ジュニア世界選手権（6/29～7/7、カナダ・キングストン）で山崎アンナ・高野芹奈組が2位、RS:X ユース世界選手権（6/24～7/1 イタリア・トルボレ）で松浦花咲実選手が3位、470級世界選手権（7/7～7/15 ギリシア・テッサロニキ）で土居一斗・木村直矢組が11位、レーザーラジアルユース世界選手権（8/11～8/18 オランダ・メデンプリック）で鈴木義弘選手が6位、レーザーラジアル級世界選手権（8/19～8/26 オランダ・メデンプリック）で土居愛実選手が3位となった。また、470 ジュニアワールド（8/21～9/2、江の島）で高山・木村組が3位との発言があった。

中川副会長から、ヤマハ発動機の特別協賛をいただいて15か国500人が参加、運営・ボランティアにとってもいい経験になったとの発言があった。

大庭委員長から、江の島開催のワールドで、水深100m前後にマークを設定する運営経験ができた。今後もRSXワールド、アジアカップで経験を積んでいくとの発言があった。

4) オリンピック準備委員会報告

河野会長から資料に基づき、セーリングワールドカップ蒲郡大会準備について報告があった。

森理事から、9月14日に豊田自動織機海陽ヨットハーバー完成式を予定している。海外からヨット等の輸送に使用したコンテナを50本置けるヤード、コーチボート用の51m浮棧橋を新設、また、マストを立てたまま入溝できる間口10mの艇庫を増設した。現在、海上保安署から指摘されたテロ対策について対応しているが、ガードマン等は主催者負担となるとの発言があった。

平松理事から、セーリングワールドカップ蒲郡大会パンフレットに掲載しているが、秋祭りイベント（CBC放送主催）が隣接するラグナビーチで同時期開催するとの発言があった。

5) 障がい者セーリング推進委員会活動について

高間障がい者セーリング推進委員会副委員長から資料に基づき、障がい者セーリング推進委員会活動について報告があった。

①ワールドセーリング・パラリンピック・デベロップメント・プログラム（PDP）開催について、World Sailing から開催時期（2018年ハンザクラスワールド広島大会の前）と開催場所（広島県観音マリーナ）の提案があった。当委員会としてすべてのJSAF加

盟団体に公募し、決定する方法で進めていたが、World Sailing の意向を尊重して広島県連に開催依頼をした。②障がい者セーリング混合（二人乗り）イベントのためのハンザ 303 クラスを採用できないか、World Sailing へサブミッションを提出している。③障がい者セーリング強化プロジェクト（2017年パラワールド・チャンピオンシップ<ドイツキール>）に関わる寄付金をいただいて、2017パラワールドキール大会に2.40D（一人乗りキールボート）に参加した丹羽巧選手は24位であったとの発言があった。

井川理事から、来月2018年ハンザクラスワールドのリハーサル大会を予定している。現在、5か国から50名前後の参加規模である。また、2018年ハンザクラスワールド大会開催へ向けて日本財団への助成申請も進めているとの発言があった。

6) ANA ウィンドサーフィンワールドカップ横須賀大会報告

宮野理事から資料に基づき、ANA ウィンドサーフィンワールドカップ横須賀大会報告があった。

2017年5月11～16日、神奈川県横須賀市津久井浜海岸で、27か国87人（男子64人、女子23人）の選手の参加を得て、特別協賛に全日本空輸株式会社（ANA）を得て開催された。観客動員は6日間で3万3千人、ウィンドサーフィンやスタンドアップパドル（SUP）などの体験会参加者は約170人、観覧船の乗船者数は533人で成功裏に終了した。これからも継続して開催していきたいとの発言があった。

7) レース委員会報告

大庭レース委員長から資料に基づき、2017年度JSAF公認申請等進捗状況一覧の報告があった。平成29年度8月16日現在までで30大会の申請がでている。また、3カ月前申請の遅延については確実に守るように指導していくとの発言があった。

8) ルール委員会報告

大村ルール副委員長から資料に基づき、ルール委員会報告があった。

①平成29年度IJ/IU候補推薦候補者について、IJ/IU候補推薦委員会（平成29年8月19日開催）において、申請者から提出された書類に基づき推薦適否を審査した結果、川田貴章氏を推薦可と判断し、会長承認をいただき、World Sailing への申請手続きをした。②国内で開催される国際大会におけるインターナショナル・ジュリー・メンバーについて、「470 Class Junior World Championships 2017」ならびに「ASAF Sailing Cup / JSAF Enoshima Olympic Week 2017」の大会主催団体から、ジュリーメンバーを選任したい旨、日本セーリング連盟規程7.1に基づく承認申請があり、審査の結果、承認されたとの発言があった。

9) ODC 計測委員会報告

名方 ORC 計測委員長から資料に基づき、インターナショナル・メジャラー (IM) 候補者推薦について報告があった。

IM 候補推薦候補者 2 名について、IM 候補推薦委員会 (平成 29 年 8 月 24 日開催) において、申請者から提出された書類に基づき推薦適否を審査した結果、村松哲太郎氏ならびに藤井茂氏を推薦可と判断し、会長承認をいただき、World Sailing への申請手続きをしたとの発言があった。

10) 普及指導委員会活動報告

川北普及指導委員長から資料に基づき、普及指導委員会報告があった。

①平成 30 年度から変更される予定であった日体協の指導者養成制度の改定が、平成 31 年度に延期された。今年度の指導者養成事業は、長崎県連、静岡県連で指導員講習会、普及指導委員会で公認コーチ (11 月東京及び 1 月仙台)、上級コーチ (2 月名古屋) を実施予定である。②日本財団「海と日本プロジェクト」は、全国 12 か所 (北海道連、青森県連、千葉県連、東京都連、神奈川県連、大阪府連、和歌山県連、鳥取県連、香川県連、山口県連、愛媛県連、日本ウィンドサーフィン連盟 (福岡) でイベントを開催した。総務、広報、環境、事業開発の各委員会と事務局との協業にて実施団体を支援。全国で、4000 名を超える集客を実現した。来年も普及活動の活性化を推進するために日本財団に申請する旨、発言があった。

11) レディース委員会報告

富田レディース委員長から、レディース委員会報告があった。

全日本 470 選手権、470 ジュニアワールドの合計 15 日間、チャイルドルームを設置した。期間中は、保育士の確保を直接団体と交渉して毎回輩出していただいた。また、2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、チャイルドルーム設置について対応していきたい。今後は、福井プレ国体、愛媛国体、セーリングワールドカップ蒲郡大会で設置するとの発言があった。

12) 外洋艇推進グループ報告

坂谷常務理事から、外洋艇推進グループ報告があった。

大島理事から資料に基づき、全日本ミドルボート選手権 2017 及び第 58 回パールレース終了報告があった。全日本ミドルボート選手権 2017 は蒲郡で 2 回目の開催となった。総合優勝はプロパガンダとなった。第 58 回パールレースは 48 艇の参加を得て開催された。レース全体で風が弱く、32 艇のみのフィニッシュとなった。レーススタート時には台風が接近しており、海上保安庁からは中止依頼もあったが、参加艇がレース実行を決定した。総合優勝はクレセント II となった。

平松理事から資料に基づき、ジャパンカップ 2017 の終了報告があった。JSAF 主催レ

ースとして3回目の開催、参加11艇となった。レースは予定通り消化できたが、ディスタンスレースで2艇のみのフィニッシュとなった。総合優勝はブラックとなり、3位までが関西艇が独占したとの発言があった。

菊池理事から、日本一周フラッグ・リレーについて報告があった。現在は、北海道の函館から室蘭に引継がれている。来年は日本海コースを予定にしている。また、沖縄東海レースコースや九州一周など、今後のプランを県連のお知恵も借りて募集しているとの発言があった。

植松副会長から、ショーケースイベント開催について報告があった。男女でのダブルハンドレース、30フィートのクルーザー、東京湾をスタートして伊豆諸島を回航し、江の島フィニッシュのレースを予定している。実現すれば、国内予選は10回くらい開催したいとの発言があった。

吉田外洋計測委員長から資料に基づいて、IRC申請の推移について報告があった。7月末で証書発行枚数は327名となっている。オーナーの高齢化でIRC取得艇は減少している。また、ORC証書発行は約50艇前後であるとの発言があった。

13) H29・30年度JOCスポーツ環境専門部会員の推薦について

大村事務局長から資料に基づき、H29・30年度JOCスポーツ環境専門部会員の推薦について報告があった。前年度から引き続き永井真美氏を再任するとの発言があった。

14) 夢・未来プロジェクト

大村事務局長から資料に基づき、夢・未来プロジェクトについて報告があった。

オリンピック・パラリンピック教育の一環の「夢・未来」プロジェクトとして、初めてセーリングの特別事業とプールで実際のヨットを使った実習を東十条小学校で開催する。講師には、北京オリンピック入賞の松永鉄也選手が行うとの発言があった。

15) 平成29年度メンバー登録数（7月31日現在）

大村事務局長から資料に基づき、JSAFメンバー登録数実績について報告があった。

平成29年度メンバー登録7月31日現在で合計8,895名との発言があった。

16) 平成29年度定時評議員会議事録案（6月17日）

大村事務局長から資料に基づき、平成29年度定時評議員会議事録（案）について報告があった。

17) 平成29年度通常第1回理事会議事録案（6月17日）

大村事務局長から資料に基づき、平成29年度通常第1回理事会議事録（案）について報告があった。

18) その他

- ①大村事務局長から資料に基づいて、日体協・JOC 新会館状況報告があった。JSAF 事務局は平成 31 年（2019 年）夏に外苑地区の新会館 6 階事務室に移転予定である。新事務局は各種資料備品を保管する倉庫がないので、各委員会の資料・備品は整理・廃棄をされたいとの発言があった。
- ②大村事務局長からパンフレット、「2017 ヨコハマフローティングヨットショー」について発言があった。
- ③大村事務局長から、次回理事会は 12 月 2 日（土）に開催するとの報告があった。

平成 29 年度通常（第 2 回）理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

平成 29 年 9 月 3 日

議 長 会 長 河 野 博 文

議事録署名人 理 事 末 木 創 造

議事録署名人 理 事 馬 場 益 弘

副 会 長 植 松 眞

副 会 長 中 川 千 鶴 子

専 務 理 事 鈴 木 修

常 務 理 事 斎 藤 渉

常 務 理 事 坂 谷 定 生

監 事 児 玉 萬 平

監 事 上 野 保